

れいわ ねんど みちか かんきょうしみんちょうさ  
令和7年度「身近な環境市民調査」

# チョウ

ちょうさけっかほうこくしょ  
調査結果報告書

ちょうさきかん れいわ ねん がつ にち がつ にち  
○調査期間：令和7年4月13日～10月18日





れいわ ねんど みちか かんきょうしみんちょうさ  
令和7年度「身近な環境市民調査」

# チヨウ

ちょうさけっかほうこくしょ  
調査結果報告書

ちょうさきかん れいわ ねん がつ にち がつ にち  
○調査期間：令和7年4月13日～10月18日



# もくじ

## I. 本調査について

(1) 「身近な環境市民調査」とは	5
(2) 令和7年度チョウ調査概要	6
(3) メッシュコードについて	7

## II. 調査結果（全体）

(1) 発見数	9
(2) 種類別	10
(3) 発見場所別	11

## III. 調査結果（種類別）

(1) アゲハチョウ科	19
① アゲハ（ナミアゲハ）	20
② キアゲハ	21
③ モンキアゲハ	22
④ アオスジアゲハ	22
⑤ その他報告のあったアゲハチョウ科	23
(2) シジミチョウ科	24
① ヤマトシジミ	25
② ベニシジミ	26
③ ツバメシジミ	27
④ ルリシジミ	27
⑤ その他報告のあったシジミチョウ科	28
(3) シロチョウ科	29
① モンシロチョウ	30
② キタキチョウ（キチョウ）	31
③ モンキチョウ	32
④ その他報告のあったシロチョウ科	32

(4) タテハチョウ科	33
① ツマグロヒョウモン	34
② ヒメウラナミジャンメ	35
③ ルリタテハ	35
④ その他報告のあったタテハチョウ科	36
(5) セセリチョウ科	38
① チャバネセセリ	39
② その他報告のあったセセリチョウ科	39

#### IV. 調査を振り返って

「チョウ調査」を振り返って (日本蝶類学会： 杠 隆史 氏)	41
調査員の皆様からの感想	44



# I. <sup>ほんちょうさ</sup>本調査について

## (1) 身近な環境市民調査とは

毎年、対象となる生き物を1種類定めて、登録いただいた市民の皆さまに、調査と報告を行っていただくものです。

皆さまが自ら大津市の自然環境の状況を調査することで、身近な地域の自然を見つめなおし、自然への関心を高めていただくことを目的としています。また、調査結果をまとめ、公表することで、より広い市民の方々への情報発信を行っていきます。

### 調査の流れ

○調査する生き物について、よく知ることからスタートします。

→ 勉強会で生き物の観察ポイントなどについて学習していただきます。

○身近に存在する生き物たちを、一定期間調査し、大津市へ報告します。

→ 調査期間、調査方法は、大津市からお知らせします。また、調査に必要な報告用紙なども配布いたします。報告は電子申請やメール、FAX、本市からお配りする返信用封筒で行います。

○調査する場所は、大津市内であれば自由です。ご自身で決めていただけます。

→ 家の周りやいつもの散歩道など、日常生活の範囲内で無理なく実施していただけます。

○皆さまからいただいた報告をもとに、大津市が報告冊子やポスターを作成します。

→ できあがった報告冊子やポスターは、学校や図書館へ配布するほか、大津市ホームページに掲載し、広く公表します。

## (2) 令和7年度チョウ調査概要

調査期間 令和7年4月13日～10月18日

市民調査員203名の方々に、それぞれがお好きな場所で調査したチョウに関して、以下のとおり報告いただきました。

### 調査項目

- ① 発見日時
- ② 発見場所（メッシュコード、詳細）
- ③ 場所の種類（市街地、公園、田畑、河川敷、湖沿い、山林、その他）
- ④ チョウの科、種類
- ⑤ 色、模様など
- ⑥ 状態（成虫、さなぎ、幼虫）
- ⑦ 数（匹）
- ⑧ ようす・気づいたこと

令和7年度身近な環境市民調査「チョウ」調査票									
発見日	時刻	発見場所				科、種類 (分かれれば)	色、模様など	状態	数(匹)
		メッシュコード (4ケタ)	詳細	場所種類	(その他)				
4/13	午前	2:00	4628	御陵町3付近	市街地 公園・田畑・河川敷 湖沿い・山林・その他	アゲハチョウ 科		成虫	2
	午後					キアゲハ		幼虫	
ようす・気づいたこと									

集計にあたり、報告いただいたチョウの数と科・種類について、以下のとおり取り扱いました。

数について

(例) 1～2匹→1匹、2匹以上→2匹、約2匹→2匹、多数→数には含めず

科・種類について

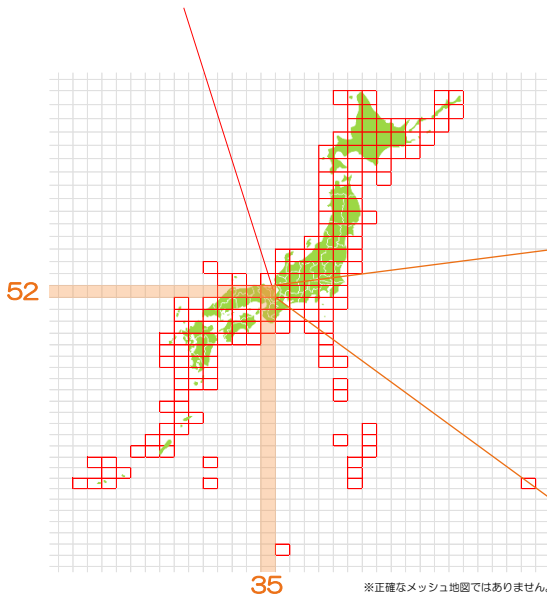
(例) アゲハチョウ?→アゲハチョウ科種類不明、アゲハチョウかキアゲハ→アゲハチョウ科種類不明、アゲハチョウほか→アゲハチョウ科種類不明

### (3) メッシュコードについて

チョウの発見場所は、国土地理院国土数値情報「標準地域メッシュ・システム」の3次メッシュコードを記入いただくことによって報告いただきました。地域メッシュ別に情報を表示する方法(メッシュ法)は、統計データの表示をはじめとして、地形、自然環境、行政地域、道路・鉄道、文化財などの位置・範囲を数値化して表示するなど、多方面で利用されています。

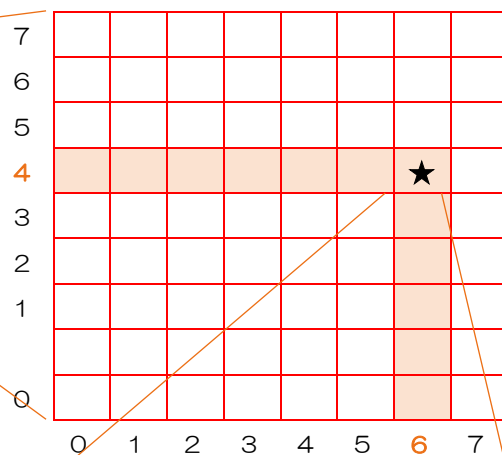
1次メッシュ (約80km×80km)

メッシュコード：5235



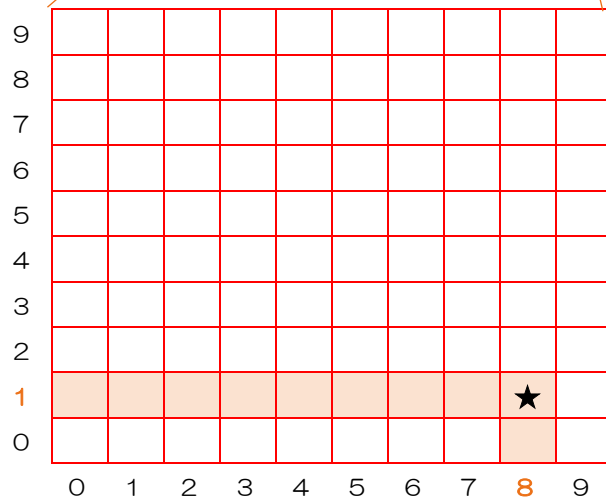
2次メッシュ (約10km×10km)

★のメッシュコード：5235-46



3次メッシュ (約1km×1km)

★のメッシュコード：5235-4618

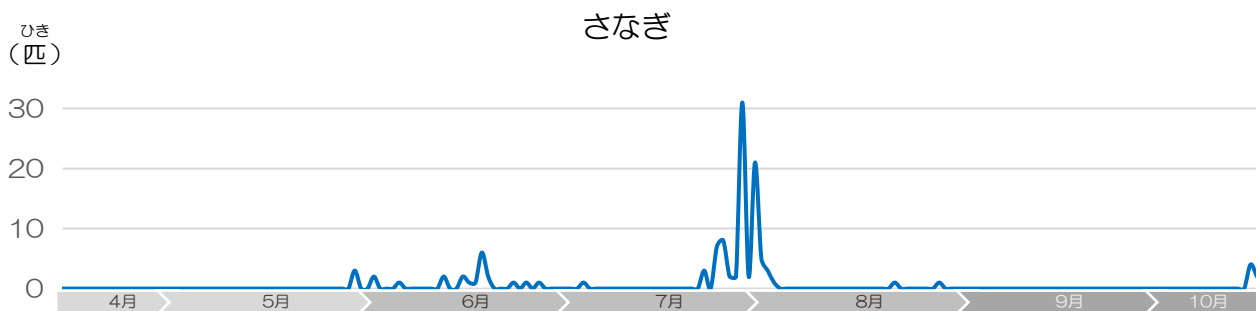
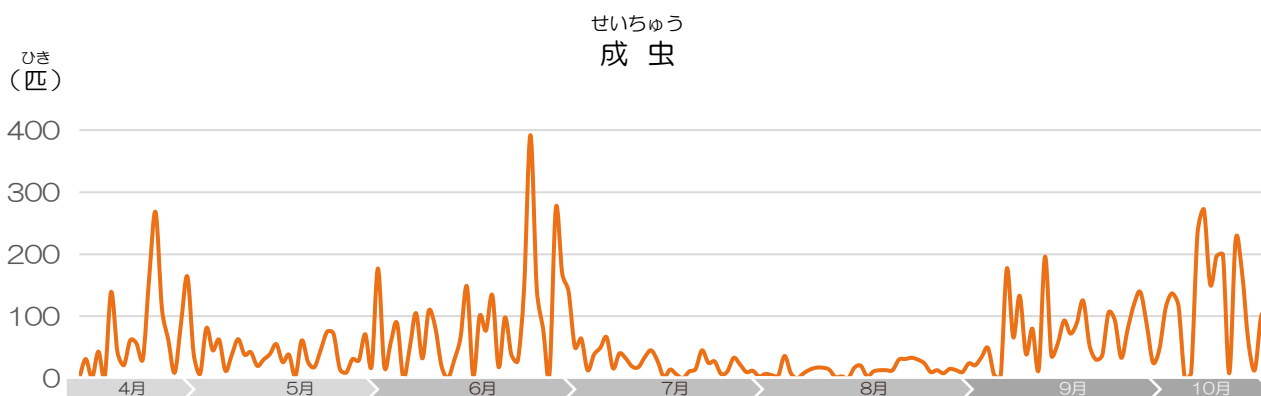


## Ⅱ. 調査結果 (全体)

# はっけんすう (1) 発見数

令和7年4月13日～10月18日の調査期間で、延べ4,880件、11,919匹の発見がありました。

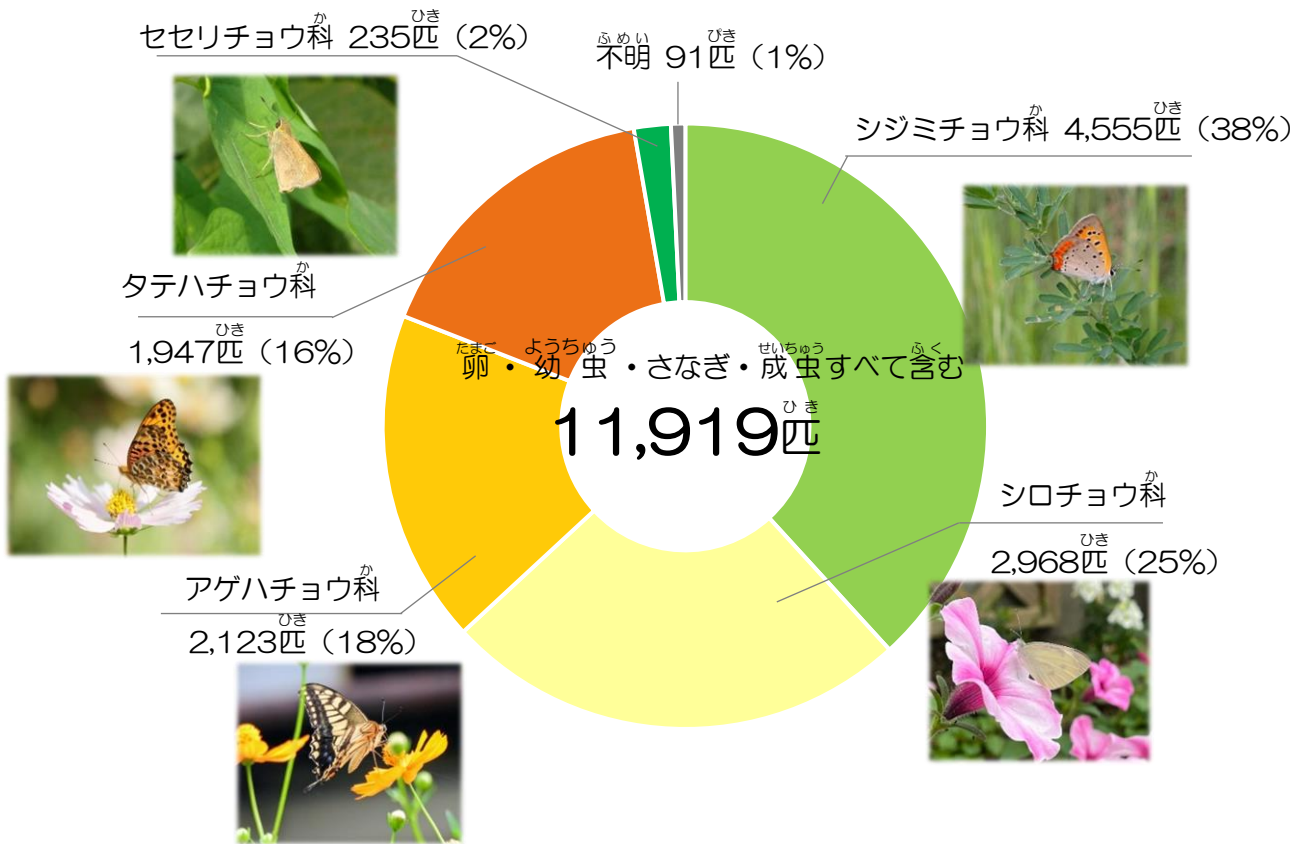
	はっけんけんすう 発見件数	こたいすう 個体数
せいちゅう 成虫	4,403件	10,804匹
さなぎ 幼虫	81件	117匹
ようちゅう 幼虫	377件	957匹
たまご (卵)	19件	41個



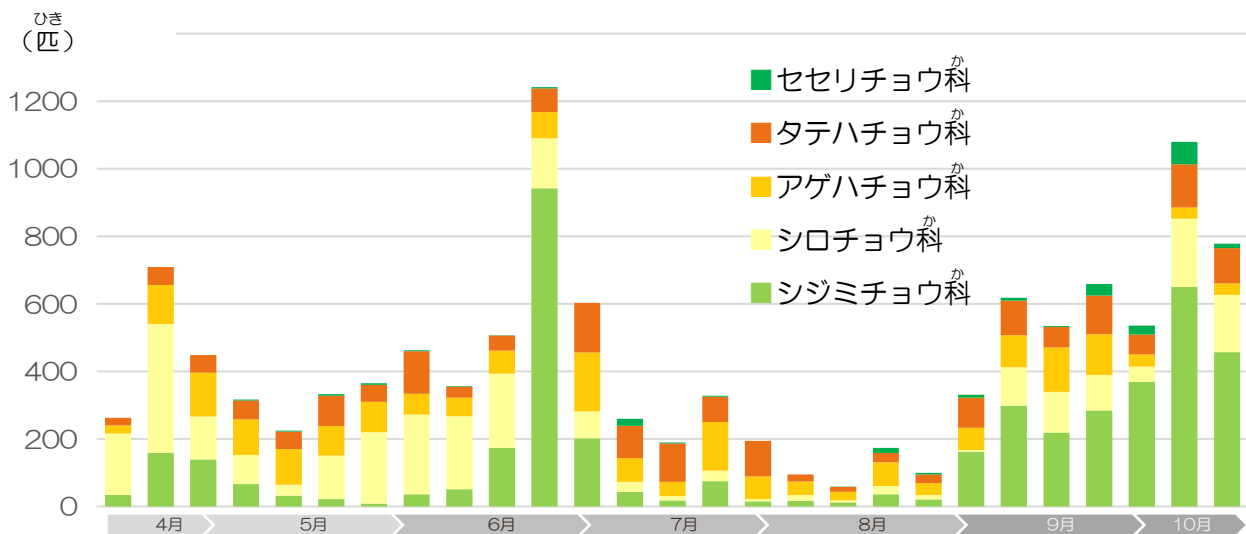
成虫は6月下旬、さなぎは7月下旬、幼虫は7月上旬に多く発見されました。5月～9月にかけて卵の発見報告もいただいています。

## (2) 種類別

### 【科ごとの発見数】



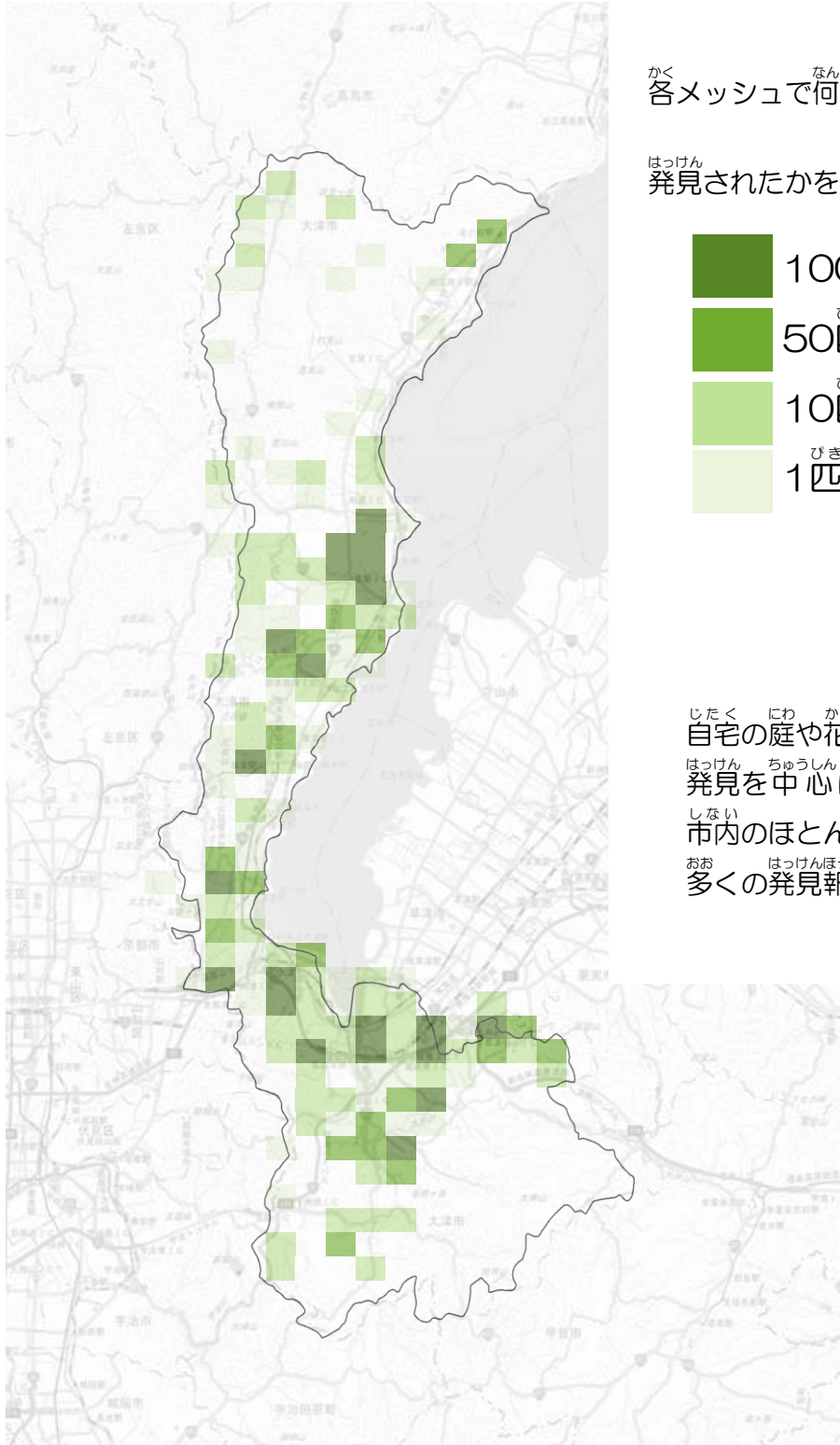
### 【科ごとの発見数 (週別)】



シロチョウ科は4月～6月、シジミチョウ科とセセリチョウ科は9月～10月に多く発見されました。タテハチョウ科とアゲハチョウ科は、調査期間を通じて、まんべんなく発見されています。

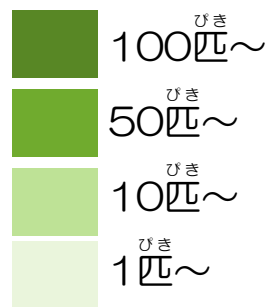
### はっけんばしょべつ (3) 発見場所別

#### ぶんぶす 【メッシュ分布図】



かく なんひき  
各メッシュで何匹のチョウが

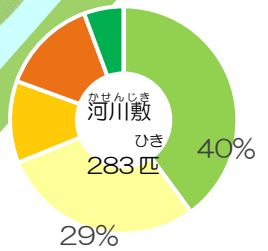
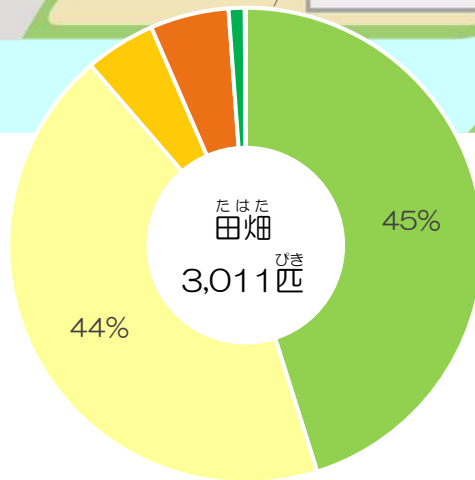
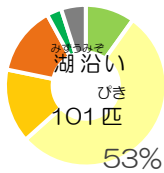
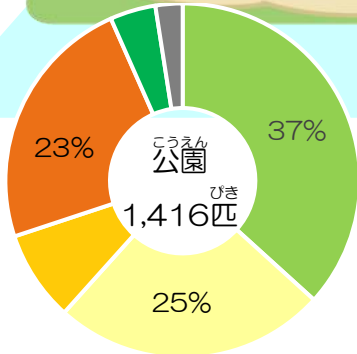
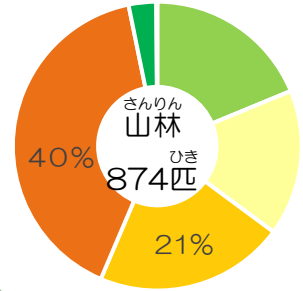
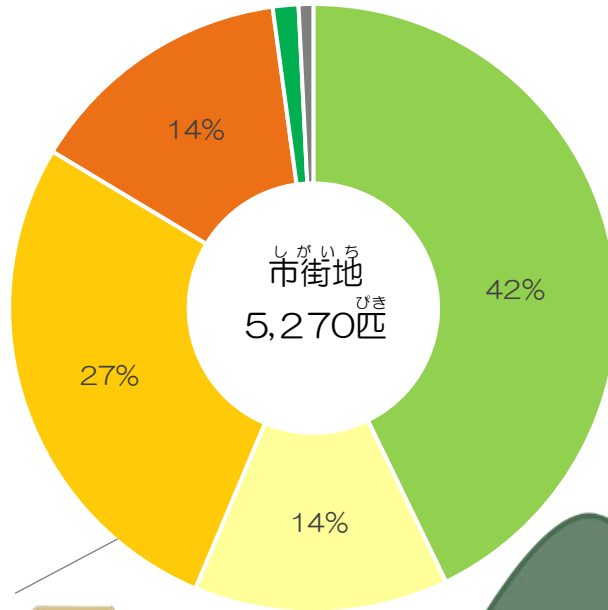
はっけん しめ  
発見されたかを示しています。



したく にわ かたん  
自宅の庭や花壇などでの  
はっけん ちゅうしん  
発見を中心に、  
しなひ ぜんいき  
市内のほとんど全域から  
おお はっけんほうこく  
多くの発見報告をいただきました。

はっけんかんきょうべつ  
【発見環境別】

- シジミチョウ科
- シロチョウ科
- アゲハチョウ科
- タテハチョウ科
- セセリチョウ科
- 不明

























その他：神社、草むらなど 964匹

市街地（住宅地含む）、田畑から多くの発見報告をいただきました。全体で見ればシジミチョウ科の発見が1番多いものの、畑などではシロチョウ科が多く発見されています。キャベツやブロッコリーを好んで食べる幼虫が多いシロチョウ科の生態がよく表れていますね。


























また、山林や公園など自然が残る場所ではタテハチョウ科の発見が比較的多くありました。

おおつし<sup>み</sup> 大津市で見られるチョウ 108種類<sup>しゅるい</sup> (琵琶湖博物館研究調査報告 第27号「滋賀県のチョウ類の分布」 2011 参照)  
 のうち、今回の調査<sup>こんかい</sup>では79種<sup>しゅ</sup>が確認<sup>かくにん</sup>されました。今回<sup>こんかい</sup>見つかっていないチョウもぜひ探<sup>さが</sup>してみてください！

科	番号	写真	個体名	成虫	さなぎ	幼虫	計
アゲハチョウ科	1		ギフチョウ				
	2		ホソオチョウ				
	3		ウスバシロチョウ	2			2
	4		ジャコウアゲハ	13			13
	5		アオスジアゲハ	126			126
	6		アゲハ	844		420	1264
	7		キアゲハ	167		65	232
	8		ナガサキアゲハ	34		1	35
	9		モンキアゲハ	144		10	154
	10		クロアゲハ	76		14	90
	11		オナガアゲハ	6			6
	12		カラスアゲハ	20			20
	13		ミヤマカラスアゲハ				
シロチョウ科	14		ツマキチョウ	11		5	16
	15		モンシロチョウ	1382		13	1395
	16		ヤマトスジグロシロチョウ	5			5
	17		スジグロシロチョウ	5			5
	18		ツマグロキチョウ	7			7
	19		キタキチョウ	550		7	557
	20		スジボソヤマキチョウ	18			18
	21		モンキチョウ	457		4	461
シジミチョウ科	22		ウラギンシジミ	80			80
	23		ゴイシシジミ				
	24		キマダラルリツバメ				
	25		ムラサキシジミ	36			36
	26		ムラサキツバメ	20			20
	27		ウラゴマダラシジミ	11			11

科	番号	写真	個体名	成虫	さなぎ	幼虫	計
シジミチョウ科	28		ウラキンシジミ				
	29		アカシジミ	6			6
	30		ウラナミアカシジミ	7			7
	31		ミズイロオナガシジミ	1			1
	32		ウスイロオナガシジミ				
	33		ウラミスシジミ				
	34		ウラクロシジミ	18			18
	35		フジミドリシジミ				
	36		ウラジロミドリシジミ				
	37		エゾミドリシジミ	1			1
	38		オオミドリシジミ				
	39		ジョウザンミドリシジミ				
	40		ミドリシジミ	7			7
	41		アイノミドリシジミ				
	42		メスアカミドリシジミ				
	43		ヒサマツミドリシジミ	1			1
	44		キリシマミドリシジミ				
	45		コツバメ	8			8
	46		トラフシジミ	12			12
	47		ベニシジミ	911		2	913
	48		クロシジミ				
	49		ヤマトシジミ	2487			2487
	50		ツバメシジミ	341			341
	51		サツマシジミ	34			34
	52		ルリシジミ	290			290
	53		ウラナミシジミ	44			44
	54		クロマダラソテツシジミ	10			10

科	番号	写真	個体名	成虫	さなぎ	幼虫	計
タテハチョウ科	55		テングチョウ	15		1	16
	56		サカハチチョウ	1			1
	57		ヒメアカタテハ	19			19
	58		アカタテハ	11		11	22
	59		キタテハ	57			57
	60		ヒオドシチョウ				
	61		ルリタテハ	82		118	200
	62		メスアカムラサキ				
	63		イシガケチョウ				
	64		ウラギンスジヒョウモン				
	65		オオウラギンスジヒョウモン				
	66		クモガタヒョウモン	5			5
	67		メスグロヒョウモン	2			2
	68		ミドリヒョウモン	12			12
	69		ウラギンヒョウモン	12			12
	70		オオウラギンヒョウモン				
	71		ツマグロヒョウモン	393		204	597
	72		スミナガシ				
	73		ミスジチョウ	15			15
	74		ホシミスジ	82			82
	75		コムスジ	67			67
	76		イチモンジチョウ	11			11
	77		アサマイチモンジ	17			17
	78		ゴマダラチョウ	44			44
	79		コムラサキ	4			4
	80		オオムラサキ				
	81		ヒメウラナミジャノメ	298			298

科	番号	写真	個体名	成虫	さなぎ	幼虫	計
タテハチョウ科	82		ウラナミジャノメ	22			22
	83		コジャノメ	4			4
	84		ヒメジャノメ	13			13
	85		オオヒカゲ				
	86		ジャノメチョウ	26			26
	87		ウスイロコノマチョウ	9			9
	88		クロコノマチョウ	17		5	22
	89		クロヒカゲ	38			38
	90		ヒカゲチョウ	15			15
	91		クロヒカゲモドキ	2			2
	92		ヒメキマダラヒカゲ				
	93		サトキマダラヒカゲ	69			69
	94		ヤマキマダラヒカゲ	5			5
	95		アサギマダラ	13			13
	セセリチョウ科	96		アオバセセリ			
97			ダイミョウセセリ	13			13
98			ミヤマセセリ	1			1
99			ホソバセセリ	1			1
100			コチャバネセセリ	3		1	4
101			ハリグロチャバネセセリ				
102			ヒメキマダラセセリ	3			3
103			キマダラセセリ	6			6
104			クロセセリ	2			2
105			オオチャバネセセリ	2			2
106			ミヤマチャバネセセリ				
107			チャバネセセリ	145			145
108			イチモンジセセリ	40			40

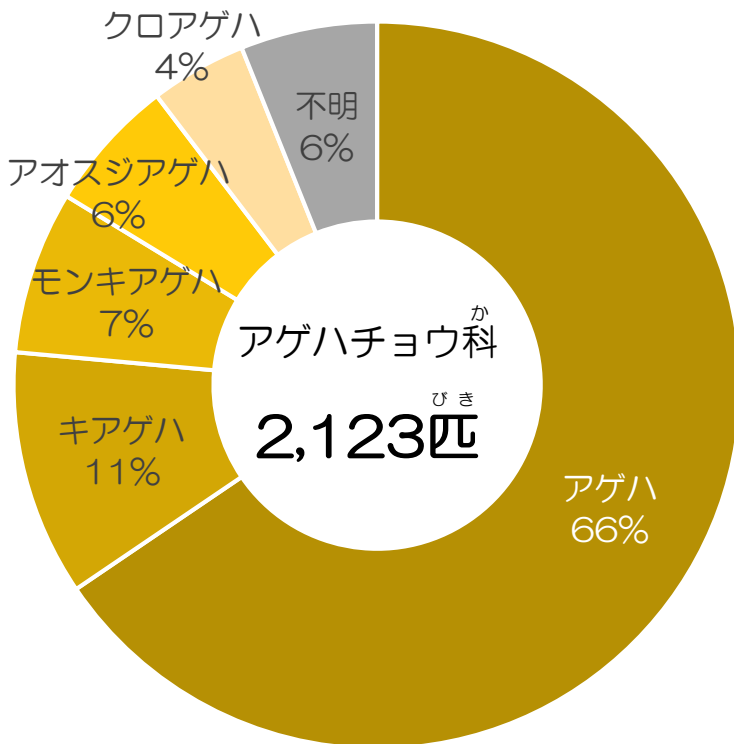


### Ⅲ. ちょうさけっか しゅるいべつ 調査結果 (種類別)

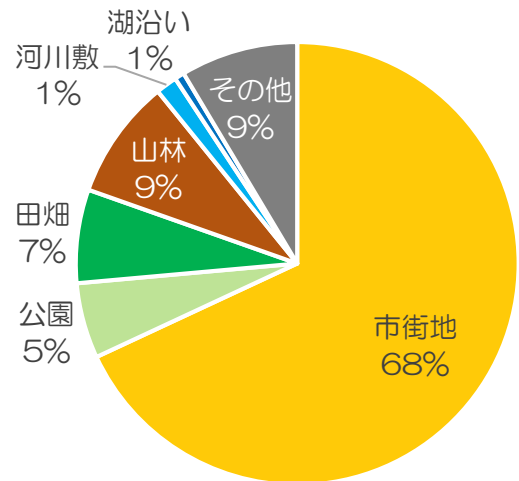
# (1) アゲハチョウ科

大型で、独特の模様と後ろばねに長い尾状突起をもつ種が多い。アゲハチョウは漢字で「揚羽蝶」と表記されますが、美しい模様を鳳凰に例えて「鳳蝶」と記されることもあります。幼虫も大型で見つけやすいものが多く、他の科と比べてたくさんの幼虫が発見されました。

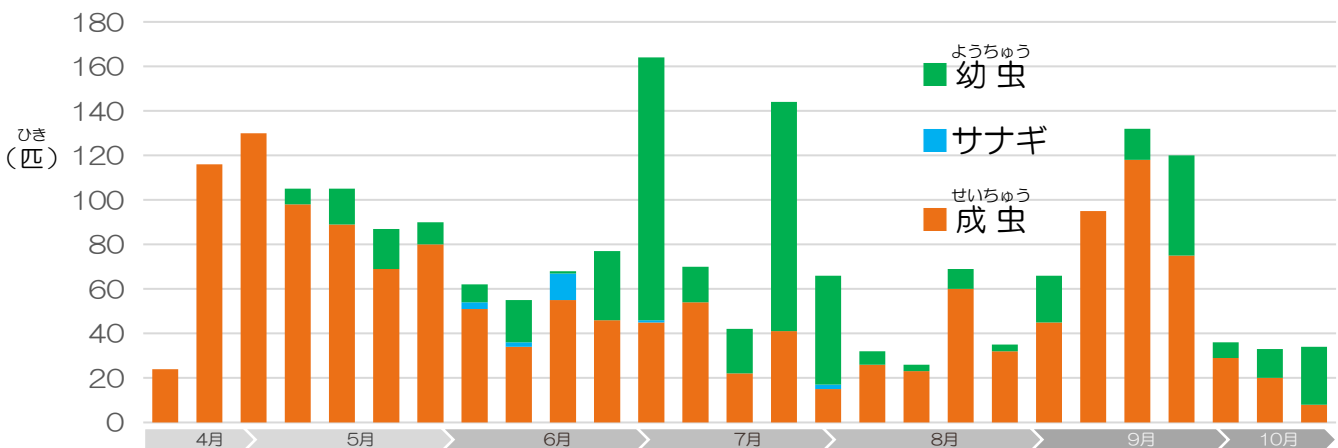
【種ごとの発見数】



【発見場所別】



【発見数（週ごと）】



## ① アゲハ (ナミアゲハ)

おお ぜんしちよう  
大きさ (前翅長) : 3.5~6.0 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ばしよ しがいち  
報告の多かった時期 : 4月~9月 報告の多かった場所 : 市街地

ちようさいんていきようしゃしん  
【調査員提供写真】



き  
【ようす/気づいたこと】※1



- ランタナに群がっていた。
- 背の低い地植えされた山椒の木の葉っぱの周りを飛んでいた。
- 雨上がりの庭を高速飛翔。
- 霧雨の中で素早く滑空。
- 虫かごで育てて羽化した。庭にはなすと、ずっと庭にいるように思う。
- ホトトギス (植物) の葉を食べていた。
- ツツジの蜜を吸っていた。

## ② キアゲハ

おお  
大きさ：3.6～7.0cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ばしよ しがいち こうえん  
報告の多かった時期：4月～10月 報告の多かった場所：市街地、公園

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- ヒガンバナに止まったり周囲を飛んでいた。
- しばらく羽を広げて止まっていた。
- 8月、9月に庭を毎日のように飛んでいた。
- カラスノエンドウの蜜を吸っていた。
- 3匹のうち2匹が鬼ごっこをしているみたいだった。
- ラベンダーの花に止まったり、ハナミズキの木の下を飛んだりしていた。

### ③ モンキアゲハ

おお  
大きさ：5.0～7.5cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ばしよ さんりん しがいち  
報告の多かった時期：4月～6月 報告の多かった場所：山林、市街地

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- と 止まらない。はや きつえい むすか 速いので撮影が難しい。
- ひなた 日向ぼっこをしていたのか弱っていたのかコンクリートのうえにしばらくいたが、その後飛んでいった。
- はな みつ す ネムノキの花の蜜を吸っていた。
- はやし ひしょう き 林のへりを飛翔して去っていった。
- と たくさん飛んでいた。

### ④ アオスジアゲハ

おお  
大きさ：3.2～4.5 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ばしよ しがいち  
報告の多かった時期：5月～8月 報告の多かった場所：市街地



【ようす/気づいたこと】※1

- 飛び回っていて写真は撮れなかった。
- 河川敷のコンクリートブロックに2匹が絡まりながら飛翔。
- 2匹がつがいのように一緒に飛んでいた。
- 花壇の周りを他のアゲハと群がって飛んでいた。
- 飛びスピードが普通のアゲハより速かった。

## ⑤ その他報告のあったアゲハチョウ科

### ▼ジャコウアゲハ



### ▼ナガサキアゲハ



### ▼クロアゲハの幼虫



### ▼クロアゲハ



ほかにも、オナガアゲハ、ウスバシロチョウの報告がありました。※2

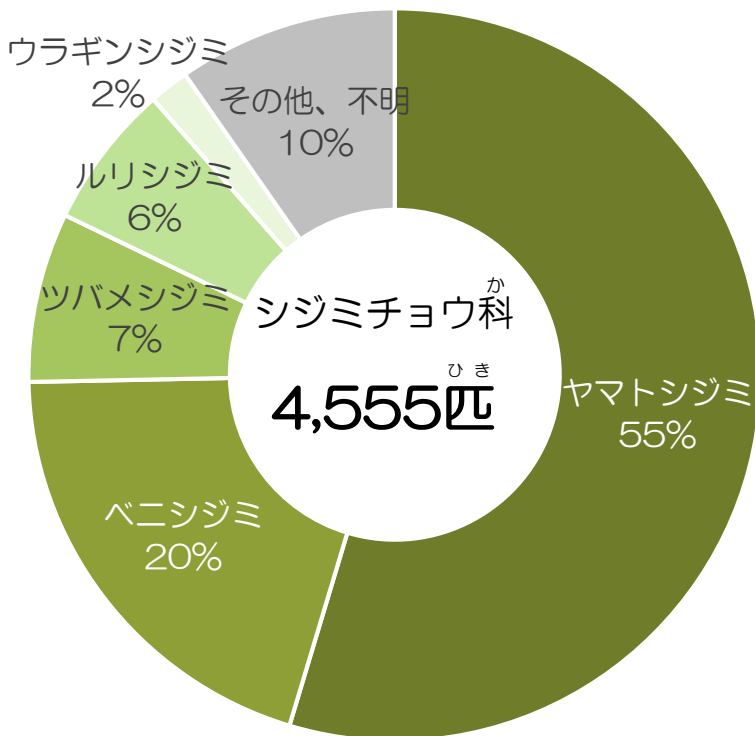
※1 一部文面を変更しています。ご了承ください。

※2 調査員の皆様からの報告であり、厳密な同定はなされていません。

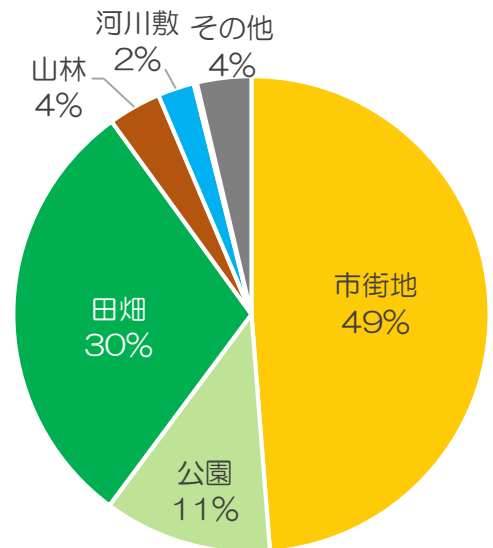
## (2) シジミチョウ科

シジミ貝のように小さく形も似ていることからその名が付いた。はねの裏側（止まったときの外側）は灰色や白色だが、表側は鮮やかな色をもつ種もいる。幼虫の発見はほとんどありませんでしたが、今回の調査で最もたくさんの個体が発見されました。

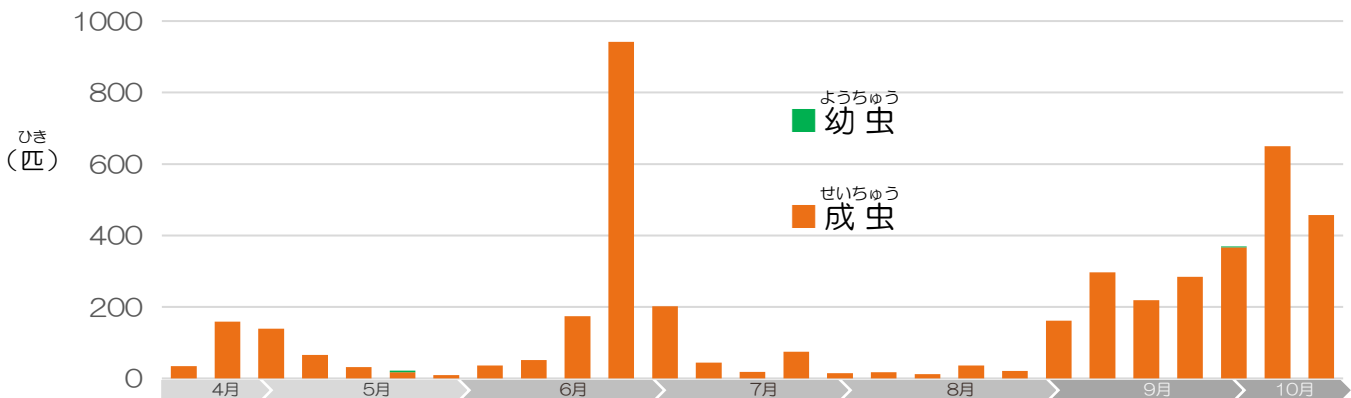
【種ごとの発見数】



【発見場所別】



【発見数（週ごと）】



## ① ヤマトシジミ

おお  
大きさ：0.9～1.5 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ぼしよ しがいち  
報告の多かった時期：9月～10月 報告の多かった場所：市街地

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- 自宅で植栽しているフジバカマに止まる。
- ネジリソウやツユクサに止まり、羽を広げたり閉じたりしてしばらく止まっていた。
- 庭のミントにつがいでいた。カメラに驚いて飛び立つ。
- 小さいけれど、よく見ると綺麗な蝶だと思った。
- たくさんのヤマトシジミがかわるがわる飛び回っていた。2匹で絡むように飛んでいる姿もあった。

## ② ベニシジミ

おお  
大きさ：1.3～1.9 cm

ほうこく おお し き がつ がつ ほうこく おお ばしよ たはた  
報告の多かった時期：6月～7月 報告の多かった場所：田畑

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- すうひゃっぴき おも たいりょうはっせい  
数百匹と思われる大量発生。
- ネジバナに止まっていた。
- ちか 近づいても は 葉っぱの上でしばらくじっとしていた。
- あぜみち はたけ くさばな うえ と  
畦道や畑の草花の上を飛んでいた。

### ③ ツバメシジミ

おお  
大きさ：0.9～1.9 cm

ほうこく おお じ き がつ ほうこく おお ぼしよ たはた し が いち かせんじき  
報告の多かった時期：4月～10月 報告の多かった場所：田畑、市街地、河川敷

ちょうさいんていきようしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- いろちが ひき おな は と  
色違いの2匹が同じ葉に止まっている。
- ひき でくるくるまわ と  
2匹でくるくる回りながら飛んでいた。
- はな はな とまわ いってい じかん はな と  
花から花へと飛び回り 一定の時間 花に止ま  
っていた。
- てんき せいぜんちゆう み  
天気のいい午前中によく見かける。
- すなば お ちた さくら はな うえ と  
砂場に落ちた桜の花びらの上に止まってい  
た。

### ④ ルリシジミ

おお  
大きさ：1.2～1.9 cm

ほうこく おお じ き がつ ほうこく おお ぼしよ し が いち こうえん  
報告の多かった時期：6月 報告の多かった場所：市街地、公園



【ようす/気づいたこと】※1

- たんぼぼがたたくさん咲いている草地でモンシロチ  
ョウやモンキチョウと共に飛んでいた。花でなく草  
の茎や葉に止まっているところを撮った。
- くさむらに身を隠すように止まったり、猫じゃらし  
の周りを忙しく飛んでいた。
- いしがき ひのあたるツル草に止まっていた。  
たまごを産もうとしているのか、葉っぱの周りを  
と飛んでいた。

⑤ <sup>た ほうこく</sup> その他報告のあったシジミチョウ科 <sup>か</sup>

▼ウラギンシジミ



▼ムラサキシジミ



▲ウラナミシジミ

ほかにも、

アカシジミ、イカルスヒメシジミ、ウラクロシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラナミアカシジミ、エゾミドリシジミ、キマダラルリツバメ、クロマダラソテツシジミ、コツバメ、ゴマシジミ、サツマシジミ、トラフシジミ、ヒサマツミドリシジミ、ヒメウラナミシジミ、ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、ムモンアカシジミ、ムラサキツバメ、ヤクシマルリシジミ <sup>ほうこく</sup> の報告がありました。※2

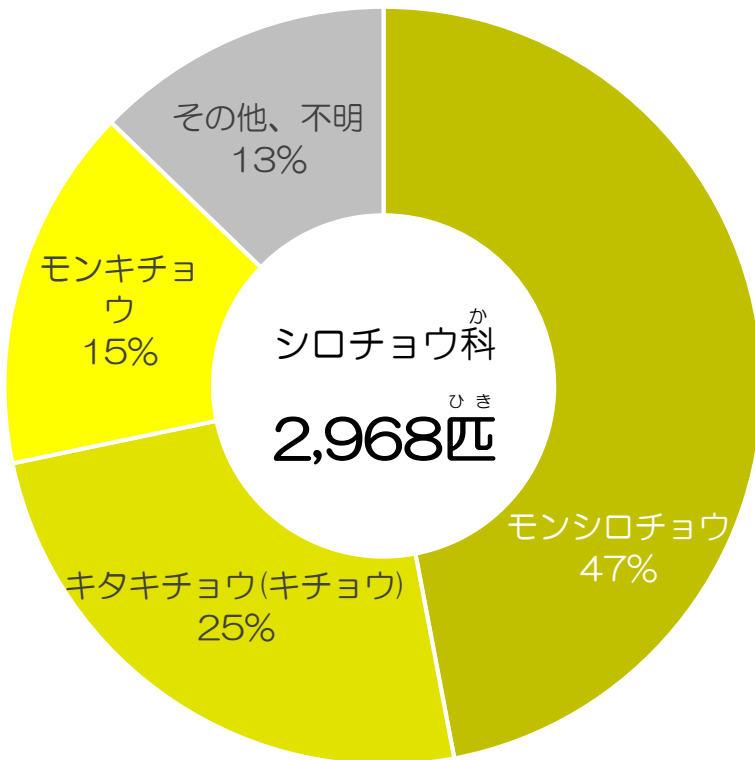
※1 <sup>いちぶぶんめん</sup> 一部文面を <sup>へんこう</sup> 変更しています。 <sup>りようしょう</sup> ご了承ください。

※2 <sup>ちようさいん</sup> 調査員の <sup>みなさま</sup> 皆様からの <sup>ほうこく</sup> 報告であり、 <sup>げんみつ</sup> 厳密な <sup>どうてい</sup> 同定はなされていません。

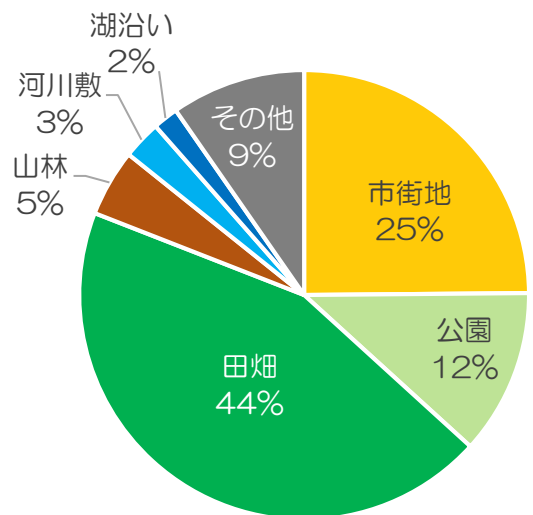
### (3) シロチョウ科

“シロ”チョウ科とあるが白色だけでなく黄色の種も多くいる。幼虫はキャベツやブロッコリーなどアブラナ科の植物を好む種が多いため、春から初夏にかけて畑の周辺を中心に発見報告がありました。

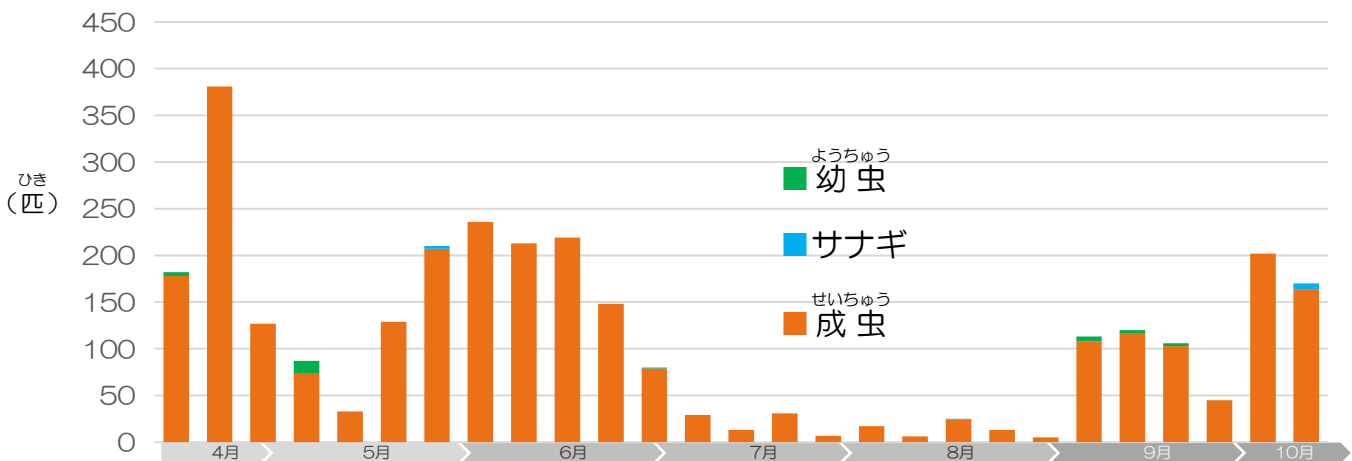
【種ごとの発見数】



【発見場所別】



【発見数 (週ごと)】



## ① モンシロチョウ

おお  
大きさ：2.0～3.0 cm

ほうこく おお し き がつ がつ ほうこく おお ばしよ たはた しがいち  
報告の多かった時期：4月～6月 報告の多かった場所：田畑、市街地

ちようさいんていきようしゃしん  
【調査員提供写真】



### 【ようす/気づいたこと】※1

- ペアのように、ひっついたまま草むら<sup>くさむら</sup>をヒラヒラ<sup>と</sup>飛んでいた。地上<sup>ちじょう</sup>から 180 センチ位<sup>ぐらい</sup>の高さ<sup>たか</sup>で飛んでいた。葉<sup>は</sup>には止ま<sup>と</sup>らなかった。
- ペアだったようで、腹<sup>はら</sup>を引<sup>ひ</sup>っ付<sup>つ</sup>けたまま飛んでいた。
- 住宅地<sup>じゅうたくち</sup>の塀<sup>へい</sup>を越<sup>こ</sup>えながら花<sup>はな</sup>が咲<sup>さ</sup>いているところの周<sup>まわ</sup>りをヒラヒラ<sup>と</sup>飛んでいた。
- 終<sup>しゅう</sup>齡<sup>れい</sup>幼虫<sup>ようちゅう</sup>から育<sup>そだ</sup>てて成虫<sup>せいちゅう</sup>になり元<sup>げん</sup>氣<sup>き</sup>に飛<sup>と</sup>び立<sup>た</sup>っていった。
- 一昨日<sup>おととい</sup>頃<sup>ごろ</sup>に降<sup>ふ</sup>った雨<sup>あめ</sup>が山影<sup>やまかげ</sup>で乾<sup>かわ</sup>ききっておらず、水<sup>すい</sup>分<sup>ぶん</sup>補<sup>ほ</sup>給<sup>きゅう</sup>をしてい<sup>ようす</sup>る様子<sup>ようす</sup>だった。

## ② キタキチョウ (キチョウ)

おお  
大きさ：1.8～2.7 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ぼしよ たはた こうえん しがいち  
報告の多かった時期：4月～10月 報告の多かった場所：田畑、公園、市街地

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- 朝の公園の光の中を飛び回り、止まる場所を探していた。
- 黄色が濃くて綺麗だった。
- キバナコスモスに夢中になっていた。
- 公園のピオトープの草むらの中に、群れをなすように飛んだり、じゃれあったり。これまでになく、大量に発見。

### ③ モンキチョウ

おお  
大きさ：2.2～3.3 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ぼしょ たはた  
報告の多かった時期：4月～10月 報告の多かった場所：田畑

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

こくどう ごうせん そ くさ びき み さつえい  
・国道1号線沿いの草むらで1匹を見つけて撮影

しようとする、もう1匹が近づいて来た。

せ たか か きつそう と  
背の高いキク科の雑草に止まっていた。

ばたけ はな みつ す  
・レンゲソウ畑にいて花の蜜を吸っていた。

みち めん じゅうたく かたん と  
・道に面する住宅の花壇のあたりを飛んでいた。

・たんぼぼがたくさん咲いている草地をモンシロチョウやシジミチョウと共に飛んでいた。

わかまつじんじゃほんでんうら こかげ はっけん きれい きいろ はね たんたい  
・若松神社本殿裏の木陰で発見。とても綺麗な黄色の羽根だった。単体だった。

### ④ その他報告のあったシロチョウ科



#### ◀ツマグロキチョウ

ほかにも、

ウスキシロチョウ、スジグロシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、ツマキチョウ、ヤマトスジグロシロチョウ の報告がありました。※2

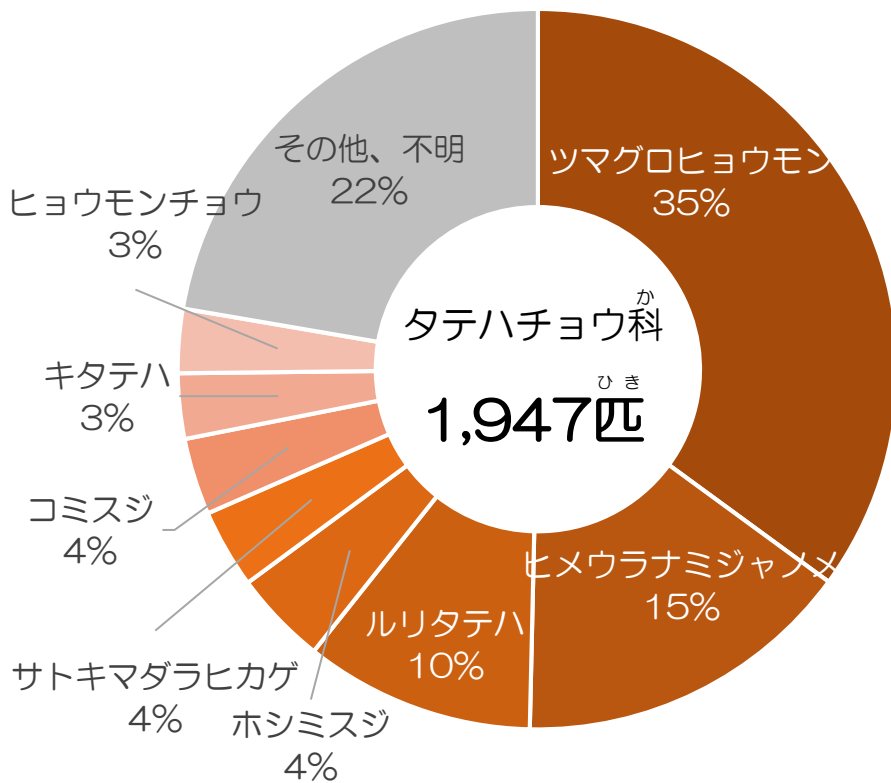
※1 一部文面を変更しています。ご了承ください。

※2 調査員の皆様からの報告であり、厳密な同定はなされていません。

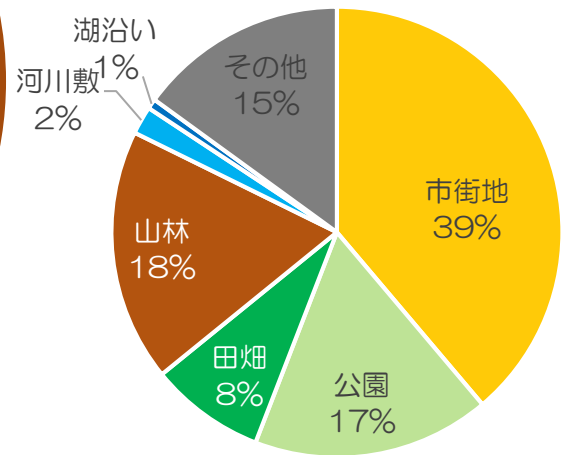
## (4) タテハチョウ科

タテハチョウ科、マダラチョウ科、ジャノメチョウ科など、従来独立した科として分類されていた様々な科から構成されます。発見数はこれまで紹介した科と比べると少ないですが、今回最も多くの種類が発見されたグループです。

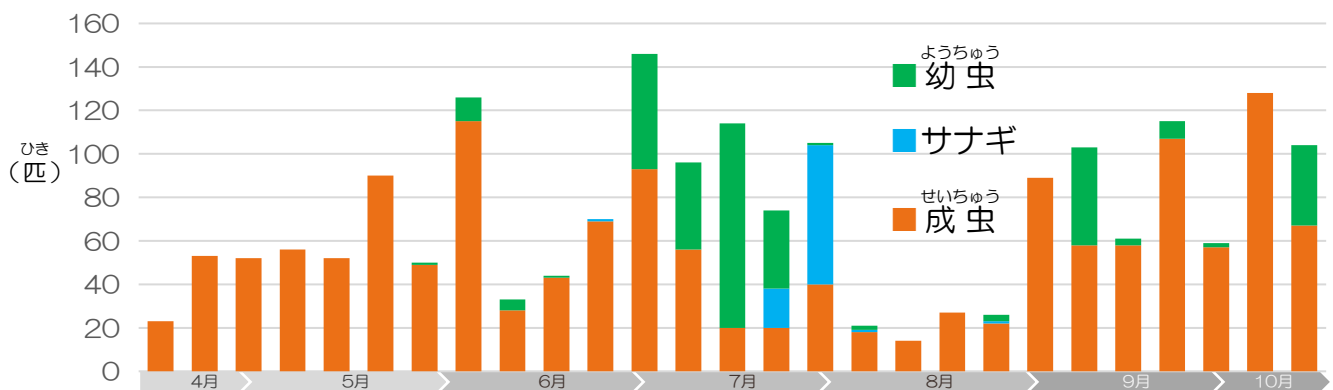
【種ごとの発見数】



【発見場所別】



【発見数（週ごと）】



① ツマグロヒョウモン あか タテハチョウ亜科

おお  
大きさ：2.7～3.8 cm

ほうこく おお 報告の多かった時期：し き 7月～がつ 10月 ほうこく おお 報告の多かった場所：ぼしよ 市街地、しがいち こうえん 公園

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- いね 稲がみの実った田の上をた飛翔。うへ ひしょう
- うえきばち 植木鉢の中のなかスミレのは葉ではっけん発見。
- ヒヨドリバナにと止まるツマグロヒョウモン。
- ホトトギスのは葉の裏側にうらがわ 4匹目ひきめを見つけた。
- ちゅうしゃじょうふきん 駐車場付近の側溝にあるそっこう金網に止まったりかなあみ近くをと飛んだりしていた。
- この地域ではじめてちいき遭遇した。そっこう優雅に飛翔し、ゆうが 雑草でひしょうひと休みざっそうしていた。やす
- とてもきれい綺麗だった。

② ヒメウラナミジャノメ ジャノメチョウ亜科 あか

おお  
大きさ：1.8～2.4 cm

ほうこく おお 報告の多かった時期：4月～9月 し き が つ が つ ほうこく おお 報告の多かった場所：市街地 ぼしよ しがいち

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/き気づいたこと】※1

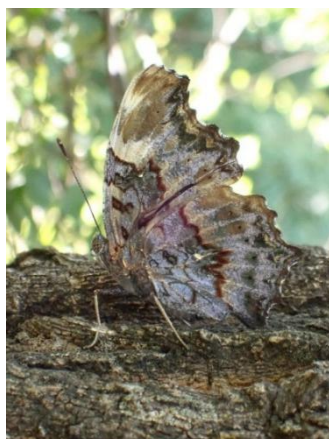
- ・フジバカマ かたんふきん花壇付近にいた。
- ・早朝 そうちようから3匹、街路樹 びきの下 がいろしゆを飛び回 したる とまわ
- ・朝 あさの公園 こうえんを飛翔 ひしようし、朝露 あさつゆの残 のこる雑草 ざっそうでひと休み やすしていた。
- ・木 きの枝 えだや地面 じめんに止 とまっていた。

③ ルリタテハ タテハチョウ亜科 あか

おお  
大きさ：2.5～4.4 cm

ほうこく おお 報告の多かった時期：7月～9月 し き が つ が つ ほうこく おお 報告の多かった場所：市街地、山林 ぼしよ しがいち さんりん

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】

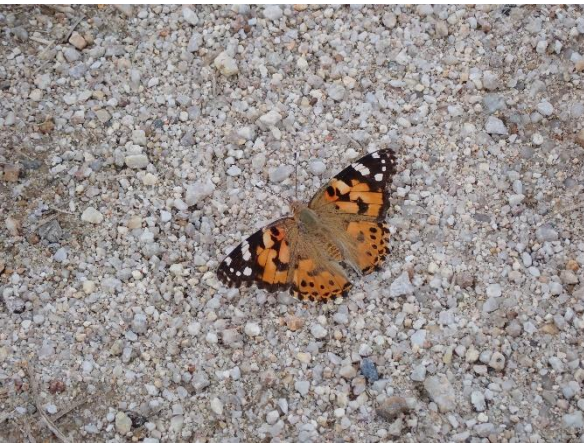


【ようす/気づいたこと】※1

- ホトトギスとユリの葉の裏にたくさんいた。トゲトゲがあり、調べるとルリタテハのチョウとわかった。
- 虫かごで育てる。チョウになるのが楽しみ。
- ホトトギスの葉を食べていた。

#### ④ その他報告のあったタテハチョウ科

▼キタテハ (タテハチョウ亜科)



▼ コミスジ (イチモンジチョウ亜科)



▲ヒメアカタテハ  
(タテハチョウ亜科)

▶アサギマダラ  
(マダラチョウ亜科)

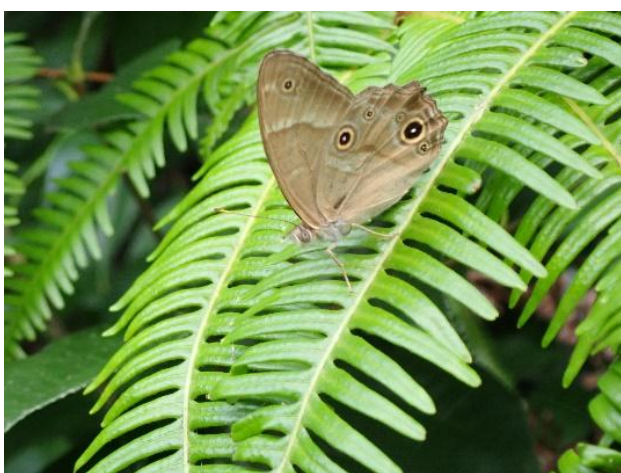




◀クロコノマチョウ  
(ジャノメチョウ<sup>あか</sup>亜科)



▲サトキマダラヒカゲ  
(ジャノメチョウ<sup>あか</sup>亜科)



▲ヒカゲチョウ  
(ジャノメチョウ<sup>あか</sup>亜科)

ほかにも、

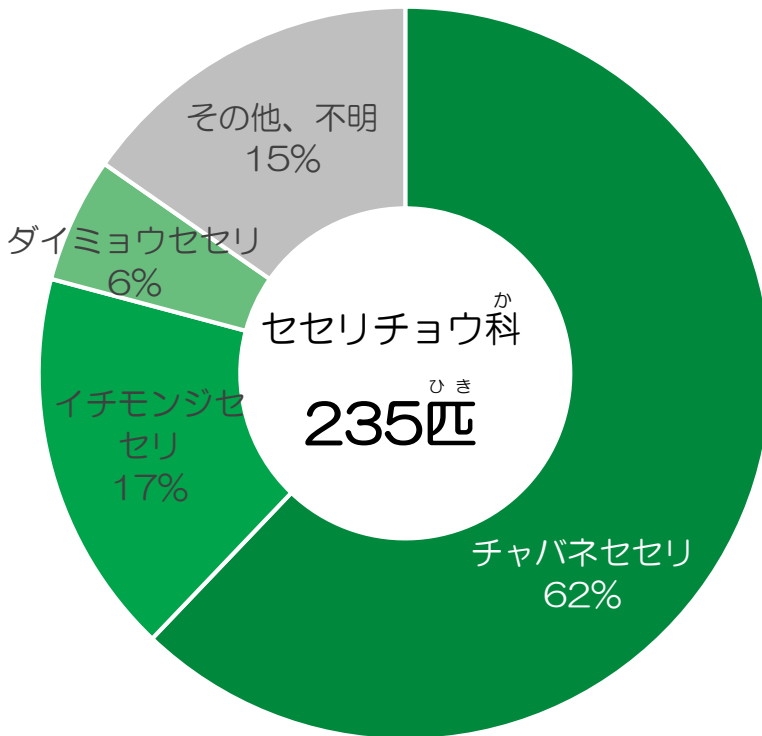
ウラナミジャノメ、ウスイロコノマチョウ、クロヒカゲ、クロヒカゲモドキ、クロコノマチョウ、コジャノメ、コウラナミジャノメ、ツマシロウラジャノメ、ヒカゲチョウ、ジャノメチョウ、アカタテハ、アサマイチモンジ、イチモンジチョウ、ウラギンヒョウモン、ゴマダラチョウ、オオウラギンスジヒョウモン、オオミスジ、クモガタヒョウモン、コムラサキ、サカハチチョウ、シータテハ、ミスジチョウ、ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、ヤマウラギンヒョウモン、リュウキュウミスジ、コノハチョウ、テングチョウ <sup>ほうこく</sup>の報告がありました。※2

※1 <sup>いちぶんめん</sup>一部文面を<sup>へんこう</sup>変更しています。<sup>りようしょう</sup>ご了承ください。  
※2 <sup>ちょうさいん</sup>調査員の<sup>みなさま</sup>皆様からの<sup>ほうこく</sup>報告であり、<sup>げんみつ</sup>厳密な<sup>どうてい</sup>同定はなされていません。

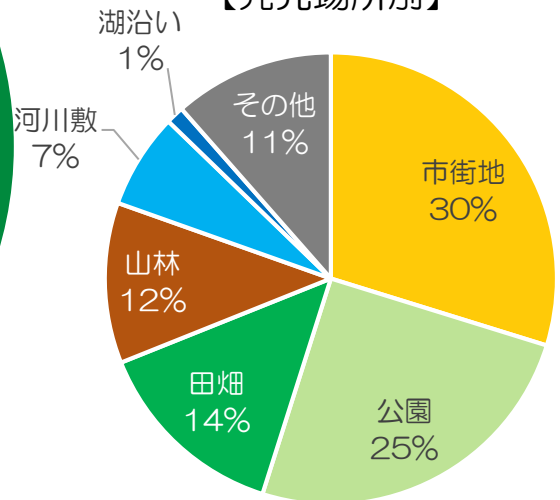
## (5) セセリチョウ科

小型で、茶色の地味な種が多いため、ガと間違われることもあります。実は、チョウとガに明確な違いは定められていません。発見数は少ないながらも、市街地から山林にかけて幅広い環境での生息が確認されました。

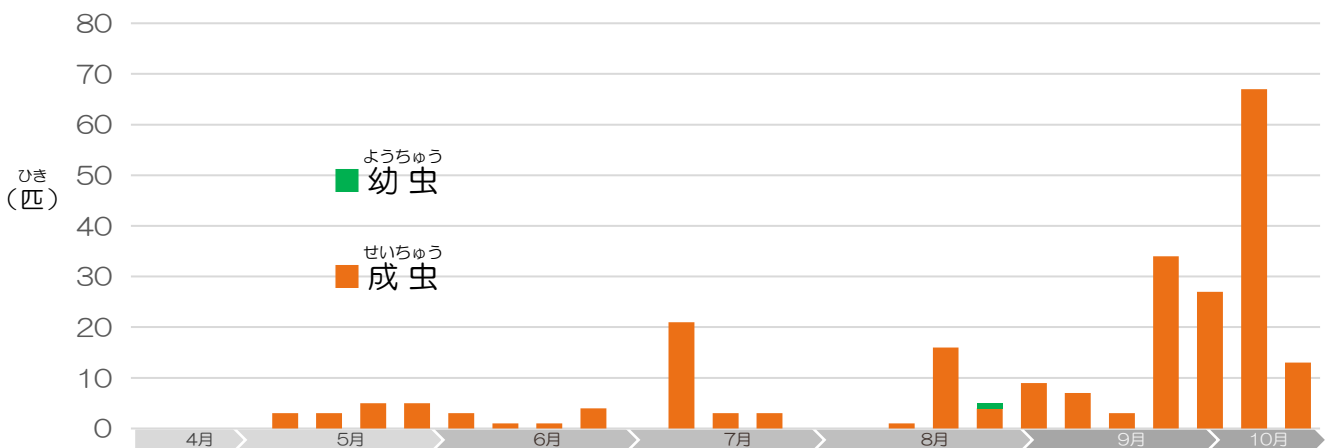
【種ごとの発見数】



【発見場所別】



【発見数（週ごと）】



## ① チャバネセセリ

おお  
大きさ：1.3～2.1 cm

ほうこく おお じ き がつ がつ ほうこく おお ぼしよ し が い ち こうえん  
報告の多かった時期：8月～10月 報告の多かった場所：市街地、公園

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



【ようす/気づいたこと】※1

- セイタカアワダチソウの蜜を吸っているようだった。
- 単体で河川敷の丈の長い草に止まっていた。
- アザミの花にいた。
- 花壇の花の蜜を吸っていた。
- ニオイバンマツリの花のミツを吸っていた。強風が吹いていても、自分が近づいても、逃げずに止まり続けていた。秋に見かけることが多いので、珍しかった。

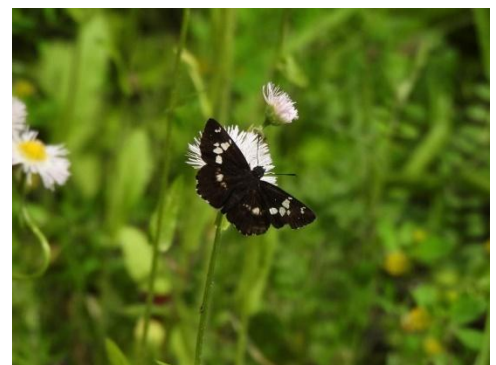
## ② その他報告のあったセセリチョウ科

ちょうさいんていきょうしゃしん  
【調査員提供写真】



◀イチモンジセセリ

ダイミョウセセリ▶



ほかにも、  
オオシロモンセセリ、オオチャバネセセリ、キマダラセセリ、  
クロセセリ、コチャバネセセリ、ヒメキマダラセセリ、ホソ  
バセセリ、ミヤマセセリ の報告がありました。※2

※1 一部文面を変更しています。ご了承ください。

※2 調査員の皆様からの報告であり、厳密な同定はなされていません。

#### IV. <sup>ちょうさ</sup>調査<sup>を</sup><sup>ひ</sup>振り返<sup>かえ</sup>って

## 「チョウ調査」を振り返って

日本蝶類学会 榎 隆史

最初にこの調査に参加された 203名もの大津市民の皆様にご心より御礼申し上げます。4月から10月までの半年にわたり、熱心に調査していただき、素晴らしい結果につながりました。

身近なチョウを通じて、自然に興味・関心を持ち、自然の大切さ、奥深さ、不思議さに触れることができました。また、参加された方の感想にもありましたが、これまではミカンの葉についていたアゲハの幼虫を駆除していたのが、成長を観察したり、容器で飼育したりすることで新たな発見があり、また生命の神秘にも触れることができました。そして、本調査の目的でもある「身近な地域の自然を見つめ直し、自然への関心が高まった」ことでしょう。さらに観察を通じて多くの感動もあったと思います。

半年間の調査を通じて、成虫の報告件数 4,403 件をはじめ、卵・幼虫・蛹という各ステージを含めた報告が延べ 4,880 件、個体数が 11,919 匹に上り、期待以上の成果が得られました。その環境別の内訳は、市街地が 5,270 匹、田畑が 3,011 匹、公園が 1,416 匹と、まさに「身近な場所」での観察が 80% を占めました。

また、これまで大津市で記録されたチョウ 108 種類のうち、その 73% にあたる 79 種が「身近な場所」で見いだされたことは、大津市の自然環境がとても良いことを物語っています。

以下に報告された種類について、科ごとに触れます。

### ＜アゲハチョウ科＞

幼虫が食べる食草や食樹が限られているため、局地的にしか見ることができないジャコウアゲハやオナガアゲハが観察されていることや、かつて南方系の蝶だったナガサキアゲハが少なからず記録されていることは興味深いことです。ミヤマカラスアゲハが記録されていませんが、特に夏型はカラスアゲハとの区別が難しいこともあるので、混同された可能性があり、今後、注目していただきたい種です。今回報告されなかった「春の女神」と呼ばれるギフチョウはかつて大津市で見られましたが、環境悪化でいなくなっていました。隣接する高島市には産地が点在していましたが、幼虫が食べる植物(カンアオイ類)がシカの食害でほとんどなくなってしまう、ギフチョウは滋賀県下では絶滅状態で、極めて残念なことです。

## <シロチョウ科>

モンシロチョウが多く報告されていますが、もっとも身近なチョウの一つで、3月頃から11月頃まで数回世代を繰り返します。キャベツなどの農業害虫でもあります。家庭菜園などでは温かく見守って欲しいと思います。食草が限られ、特に市街地では珍しいツマグロキチョウが7例、さらに全国的に減少が著しく、食樹のクロウメモドキも多くないスジボソヤマキチョウが18例も記録されたことには驚いています。また、年1回、春先にしか発生しないツマキチョウが卵も含めて16例も観察されたことも貴重なデータです。

## <シジミチョウ科>

夏の終わりころから南方から飛来し、ソテツの新芽を探して産卵し、世代を繰り返しながら北上していくクロマダラソテツシジミが記録されています。本種は北上するコースが決まっているようで、毎年のように大津市で確認されているのは興味深いことです。また、ウラクロシジミ・エゾミドリシジミ、そして全国的にも珍しいヒサマツミドリが記録されていることには驚きました。アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ・ウラゴマダラシジミ・ミドリシジミを含む「ゼフィルス類」は豊かな雑木林がないと生息できません。大津市の自然環境の豊かさを物語るものでもあります。さらに近畿地方では和歌山県以外では稀なサツマシジミが34例も報告されていることも驚きです。

## <タテハチョウ科>

ヒョウモンチョウ類の中でも個体数が少ないクモガタヒョウモンは注目種で、大津市の記録は特に貴重です。ツマグロヒョウモンはスミレ類を食草とし、栽培種のパンジーを好んで食べるため、すっかり身近なチョウに仲間入りしました。幼虫は黒に赤い線が入り、棘のような突起があるのでグロテスクですが成虫は美しいチョウです。見つけたら駆除せずに飼育してみてください。本種は1980年代頃までは近畿地方では珍しいチョウでしたが、温暖化の影響と食草のパンジーなどのスミレ類がどこにでもあるので、近年は北海道にまで北上しています。

「国蝶」で「滋賀県の蝶」でもあるオオムラサキは、今回報告されませんが、大石付近では以前から成虫がいくつも確認されており、三井寺や坂本などでは幼虫も発見されていますので、ぜひ継続的に調査をしてみてください。

## <セセリチョウ科>

近年、チャバネセセリはイネの害虫として知られるイチモンジセセリよりも個体数が増え、特に秋季は市街地で見かけるセセリチョウはほとんどが本種で、もっとも身近なセセリチョウです。アオバセセリとミヤマチャバネセセリは記録されていませんが、今後の調査に期待したいところです。

いじょう かべつ の 以上、科別に述べましたが、ほうこく しゅ なか 報告された種の中には、こくない せいそく 国内には生息しないものや、しがけんか 滋賀県下にはせいそく 生息しないものなど、あき どうていあやま おも 明らかに同定誤りと思われる種がすく 少なからずふく 含まれていました。また、カラ スアゲハとミヤマカラスアゲハ、ルリシジミとサツマシジミ・ヤクシマルリシジミ、サトキマダラ ヒカゲとヤマキマダラヒカゲ、クロコノマチョウとウスイロコノマチョウなどをはじめ、きんじしゅ 近似種が いるチョウをせいかく どうてい 正確に同定するには、さいしゅう ひょうほん ひつよう 採集して標本にする必要があります。また、ひょうほん 標本にしておく ときちょう しりょう 貴重な資料としてみらいえいごう のこ 未来永劫に残すこともかのう 可能です。

かつてはなんほうけい ちよう 南方系の蝶で、きんきちほう ひじょう めすら 近畿地方では非常に珍しかったナガサキアゲハやツマグロヒョウモンが きんねん ふうつ み 近年は普通に見られるようになり、これらの種がしゅ おんだんか ともな ほくじょう 温暖化に伴って北上していることがわかり、自然 かんきょう へんか はだ かん 環境の変化を肌で感ずることができます。また、チョウをはじめこんちゅうるい ようちゅう えさ 昆虫類は、幼虫の餌となるしょくぶつ 植物 があって、かんきょう ほぜん 環境が保全されていればせいりょく かくだい 勢力を拡大できるということがよくわかります。

こんかいほうこく きろく たいへんきちょう 今回報告された記録は大変貴重なデータで、げんざい じょうきょう し 現在の状況をj知ることができるだけでなく、こんご 今後 かんきょうほぜんぎょうせい おお やくだ 環境保全行政にも大いに役立つものです。

また、きょうりょく おおつし みな 協力いただいた大津市の皆さんにおかれましては、これらのたいけん 体験がきっかけとなり、しぜん 自然 のたいせつ すば 大切さや素晴らしさをこれまでいじょう にんしき 以上に認識されるとともに、みな せかい がこれからむげん に ひろ おも おおつし 広がるとおもいます。大津市はもちろんぜんこく さとやま しんりん 全国の里山や森林にもきょうみ きょうみ 興味がおよび、りょこうさき 旅行先でもチョウが め 目につくようになり、ほっかいどう おきなわ 北海道や沖縄をはじめぜんこく 全国にまだみ うつく 見ぬ美しいチョウをみ い 見に行こうという ようになるかもしれません。また、こんかい ほうこく 今回は報告がなかったオオムラサキやミヤマカラスアゲハなど はっけん 発見にもつながることでしょう。

## 調査員の皆様からの感想

お配りしたアンケートにて、たくさんの感想お寄せいただきましたので、一部をご紹介します。  
(紙面の都合上、一部割愛又は文面を変更しております。ご了承ください。)

○飛んでいるチョウを見分けるのは難しかったです。でも、勉強会資料で色々載せて頂き助かりました。どの種類が見分けるのが楽しくなりました。

○身近な自然を感じるいい機会になりました。虫を追いかけていた子どもの頃を思い出し、故郷の里山や草地在り浮かび、「そんな時代があったよなあ」と懐かしくなりました。

○ふだんにげなく見過ごしてしまう日常の光景も、調査を意識することで新たな発見がありました！子どもの保育園の送迎時にチョウを見つけることも多く、子どもにもチョウを教えてあげられて一緒に楽しめました。

○孫と楽しく調査しました。孫に「アゲハ違う、キアゲハ」と教えられながら、幼虫を見つけては、アリ、クモ、鳥に食べられるからと、虫かごで育てて、羽化の観察をしたり、羽化して喜んだり、楽しかったです。卵はなかなか幼虫になりませんでした。虫かごではダメでしょうか。チョウになったのを庭に放すと、ずっといるように思います 1~2 km 飛びするのは本当でしょうか。

○レモンの若葉を全て幼虫に食べられて去年までは怒っていたけど、今年からは許すことにしました(多分、うちのレモンの木は人気の物件の様子なので)。サンショの木にもたくさんいて、驚きました。昔、子どもの頃に母がよくチョウの幼虫を見つけてきて虫かごで飼っていたことを思い出しました。昔とったなんとかで、今でも母の方が幼虫を見つけるのが上手です。食べたミカンの種をまいたら発芽して育っているので、またチョウに来てもらいたいです。

○どこにいてもチョウが気になりました。シャッターチャンスが中々なかったです。すぐ飛んでいくので機敏さが必要でした。(ある雑誌に投稿しました。)

○捕まえずに種類を確認するのが難しかったです。(動画を撮って確認しました。)  
「いつもよく見るチョウ」と思っていたものが、実際は多種多様でした。「このあたりでは見たことない」と思っていたチョウが身近にいました。多くの気づきがありました。参加して良かったです。

○初めはチョウの調査は簡単と思っ取り組みましたが、なんのチョウであるかはなかなか確認するのが難しく、写真に撮ることもほとんどままなりません。チョウは常に飛び回っており、草に止まることが少なく、止まっても近づくとすぐに飛んでいってしまいます。夏に多く飛ぶのかと思っていましたが、秋口の方が多くいたのには驚きました。種類の見分け方が非常に難しかったです。羽の裏表で模様なども異なることから、書籍等で調べても分かりずかったです。初めて見たチョウもあり面白かったです。

○今年の夏は6月～10月まで記録的な猛暑日が多かったです。危険な暑さの夏でした。チョウたちにとっては今年の夏の暑さはどうだったのでしょうか。観察を通して、チョウたちは4月春～暑い夏～10月秋までどの月も草花のある場所にはチョウが飛んでいました。昼間であったり、夕方であったり、天気の良い日にチョウは1羽で飛んでいることが多いことが分かりました。

○今年の夏の暑さのせい、虫の数が少なかったように思います。チョウに関しても同様に少なかったと思います。通年だと「アゲハチョウ科」のチョウが飛んでいたが…

○今年、自宅のレモンの木ではアゲハ、クロアゲハ共にさなぎまでたどりつきました。チョウは1匹もいませんでした。この調査を機会に1本の小さなレモンの木の食物連鎖を見ることができたの楽しかったです。

○今回は、自分の好きなチョウが調査対象だったのでとても楽しかったです。また、たくさん調査に通っていた場所では、タテハチョウ科のチョウがたくさん生息していることが分かり、驚きました。次回の調査も参加したいと思います。

○チョウに対して、関心が深くなりました。散歩の楽しみが1つ増えました。

○日頃からよく目にしていたチョウたちを調査に参加したおかげで、もっと意識して見るようになりました。勉強会でお聞きしたような珍しいチョウを見つけることはできませんでしたが、楽しかったです。参加できてよかったです。

○今年の夏は猛暑日が続き降水量も少なかったことからチョウはあまり見かけませんでしたが、8月のお盆以降は日照時間が短くなりつつあるため見かける機会が少しずつ増えているように思いました。

○図鑑を借りてみると、かなり種類が多いことを知りました。とまっている時にじっくり観察する機会を増やしていきたいと思いました。

庭でチョウが好む環境をもっと作ってあげようと思いました。

元気なチョウをたくさん見れて良かったです。

チョウのいる昆虫館に興味を持っていたので、行ってみようと思えます。

調査は楽しめました。

○チョウに興味を持ちました。青虫がぎんかんの木に何匹もいるといつもなら取ってしまうけれど、成虫になるのを見守りました。ちょっと楽しかったです。

○調査に参加することで、日頃目にも留めないシジミチョウやタテハチョウなどにも注意が向けられチョウの世界の広さを知ることができました。それにしても種類が多いですね、驚きました。

○今年はチョウの観察をさせていただき、ありがとうございました。チョウが飛んでいるのを目にと意識して観察することができました。(このような機会がなかったら、意識してチョウを見ることはなかったと思えます。)

ご参加いただいた多くの市民調査員の皆様のご協力により、

無事に本調査を実施することができました。また、本調査の実施及び本書の作成にあたり、

日本蝶類学会 杠 隆史 先生より、

貴重な資料の提供、また、多大なるご指導、ご協力を賜りました。

この場をお借りして、ご協力いただいたすべての方に深く感謝申し上げます。

## 協力・出典

- 表紙写真：  
身近な環境市民調査員
- 本文、写真：  
日本蝶類学会 杠 隆史 様  
身近な環境市民調査員の皆様

## 参考文献

- 琵琶湖博物館（2011）「琵琶湖博物館研究調査報告第27号 滋賀県のチョウ類の分布」
- 猪俣敏男、松本克臣（2006）「新装版山溪フィールドブックス5 蝶」山と溪谷社
- 昆虫エクスプローラ（<https://www.insects.jp/>）

本調査は学術的な調査ではなく、報告された種が大津市に生息していることを証明するものではありません。

本書に掲載している地図は、国土地理院の地理院地図（電子国土 Web：<https://maps.gsi.go.jp>）を基に大津市で作成したものです。

令和7年度「身近な環境市民調査」  
ちょう調査結果報告書

令和8年3月 大津市環境政策課

この冊子の本文は、環境に配慮した再生紙を使用しています。